

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 10010120

政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 全体事業費【平成25年度～平成34年度】224,000千円 修繕橋梁数～24橋、橋梁点検(平成28年度、平成29年度)～54橋
基本施策	16	交通体系の整備	事業優先度	A		
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	町道橋修繕事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	10 建設水道課		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	橋梁修繕数		関係課	#N/A		
事業目標	4橋		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名			
住民協働	無		関係個別計画名			

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	橋梁詳細設計～6橋 橋梁修繕工事～4橋 橋梁点検 ～54橋		◆橋梁詳細設計 当沸橋、山田橋 ◆橋梁修繕工事 当沸橋	◆橋梁詳細設計 当沸橋、山田橋、千田橋 ◆橋梁修繕工事 山田橋	◆橋梁詳細設計 元稲府橋 ◆橋梁修繕工事 当沸橋、山田橋、千田橋 【単独】元稲府橋 ◆橋梁点検(近接目視) 点検橋梁数～25橋	◆橋梁詳細設計 豊年橋、高野橋 ◆橋梁修繕工事 元稲府橋 ◆橋梁点検(近接目視) 点検橋梁数～29橋	
	事業費(千円)	102,344	0	5,670	16,730	57,000	22,944
	財源内訳						
	国庫支出金	62,196		3,969	11,711	31,500	15,016
	道支出金	0					
地方債	35,100		1,700	5,000	25,500	2,900	
その他	0						
一般財源	5,048		1	19	0	5,028	
実績事業費							
事業費(千円)	95,223	0	5,454	16,729	52,974	20,066	
財源内訳							
国庫支出金	57,424		3,818	11,710	28,764	13,132	
道支出金	0						
地方債	27,300		1,600	5,000	18,800	1,900	
その他	0						
一般財源	10,499		36	19	5,410	5,034	
関 連 事 項	特定財源の名称 ・社会資本整備総合交付金 (補助率7/10) H29年度(補助率6.545/10) ・地方債(過疎)100%	【評価・実績】	(実施内容等) ※事務事業評価結果	(実施内容等) 設計橋梁:当沸橋、山田橋 修繕橋梁:当沸橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 設計橋梁:当沸橋、山田橋、 千田橋 修繕橋梁:山田橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 橋梁詳細設計:元稲府橋 橋梁修繕工事:千田橋、当沸橋 山田橋 元稲府橋【単独】 橋梁点検(近接目視):25橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 橋梁詳細設計:豊年橋、高野橋 橋梁修繕工事:元稲府橋 橋梁点検(近接目視):29橋 ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1橋	1橋	4橋	1橋	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	96%	100%	93%	87%
		全体達成率	0%	5%	22%	73%	93%
	備考欄						

事業名	町道橋修繕事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係	大庭 悟

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、橋梁	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	修繕橋梁数		
【抱える課題やニーズは】	橋梁の損傷による通行障害		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	橋梁修繕による損傷箇所の健全化		① 修繕橋梁数/修繕橋梁数	目標年度	平成29年度
				目標値	1橋
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	実績値	1橋	
			達成度	100.0%	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	民間業者による調査設計・橋梁点検、工事の実施	入札により民間業者に業務を発注し、調査設計・橋梁点検の実施と、工事を発注し、橋梁修繕を実施した。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		橋梁の修繕を行うことで、適切な維持管理ができ、安全な通行の確保が図られる。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		コスト削減を図るために策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき橋梁の修繕を実施できたこと、また、橋梁修繕を実施したことで、安全な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		橋梁修繕を実施したことにより、道路の安全な通行の確保が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
橋梁の修繕を行い、安全な通行を確保することは必要であることから、計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁修繕を完了させるまでは、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止